

第25回（2022年）まちづくり・都市デザイン競技 結果概要

主催：まちづくり月間全国的行事実行委員会、公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

後援：国土交通省、宇都宮市

事務局：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

趣旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。

こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成10年度より毎年実施しており、今年度で第25回目を数えます。

対象地区

今年度は、県都の玄関口として広域交通と域内交通の結節する交通の要衝に位置するとともに、政治・経済・文化の中心として発展してきた都心部地区への玄関口でもある「宇都宮駅西口周辺地区」（約25ha）を対象地区に選定しました。

JR宇都宮駅の西側は都心部として、都市全体の発展をけん引する都市拠点であり、さらには「宇都宮の顔」となるエリ

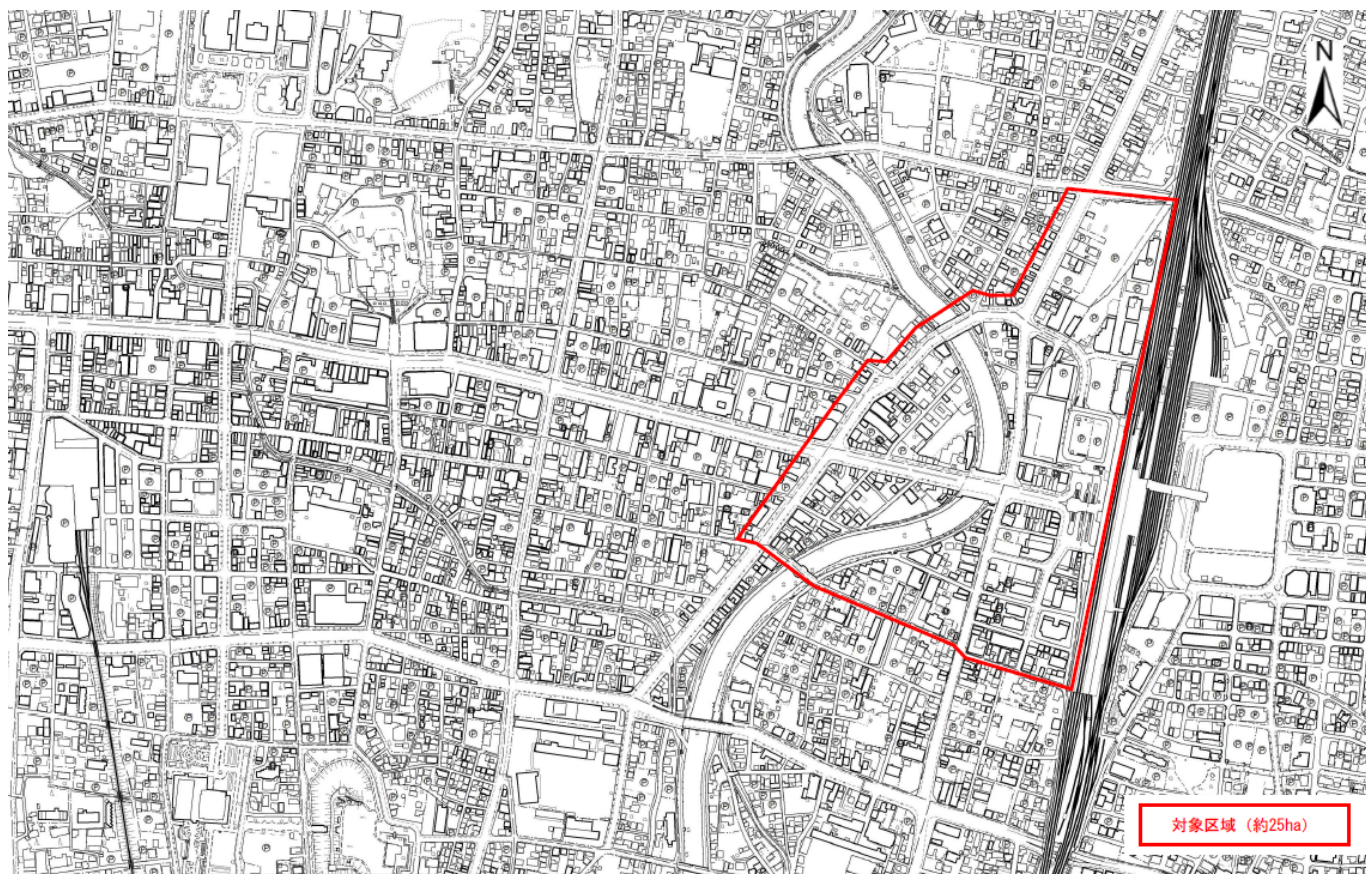
アであることから、本市が目指すスーパースマートシティの土台となるネットワーク型コンパクトシティ（NCC）形成をより一層推進するため、都市の様々な機能の集積などによるにぎわいや交流の促進などを進める「拠点化」とLRT、バス路線、地域内交通など総合的な「公共交通のネットワーク化」を一体的に進めることで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、持続的に発展できるまちの実現を目指しています。

募集内容

宇都宮市が目指す「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現に向けて、以下の2点について10～20年後を見据えた提案を求めました。

(1) 対象地区の将来像及びまちづくりのコンセプト

令和4年2月に策定した「都心部まちづくりビジョン」を参考にしながら、宇都宮駅西口周辺地区が果たす役割と、まちづくりを進めていく上でのコンセプトを設定した上で、行政、地域、事業者などまちづくりに関わる関係者が理想と考えるような将来像について、以下の2点に配慮しつつ提案してください。



① 宇都宮の都市構造の成り立ちやエリアの特性

本市の都心部は、JR コアとセンターコアの 2 つの都心核と東西／南北の 2 つの都心軸の二核二軸からなる都市構造によって形成されています。これらの都心核、都心軸とあわせて、宇都宮の魅力となっている賑わいや、田川・釜川を活かした水のネットワークを重要な都市構造として捉え、回遊しやすいまちを創出していくことが、都心部地区の活性化の視点として非常に重要です。

② 宇都宮駅西口周辺地区における課題の解消

現在の駅前広場は、昭和 58 年に整備されたものであり、再整備にあたっては「交通」「空間」「環境」「景観」「社会状況」といった各項目における課題解消を含めて検討していく必要があります。

(2) 将来像の実現に向けて必要と考えられる機能の配置や、整備・活用のアイデア及び整備手法

対象地区におけるまちづくりのコンセプトを踏まえた将来像の実現に向けて、以下の 4 点について考慮しつつ、必要と考えられる機能の配置（行政・民間など）や、整備・活用のアイデア及び整備手法について提案してください。

また、対象地区は宇都宮駅西口北側の平面駐車場など低未利用地が点在していくことから、それらの整備・活用のアイデアや整備手法についても提案してください。

- ① 対象地区内における課題解決に向けた視点が入るように考慮してください。
- ② 整備手法などを検討する際は、実現性についても一定程度、考慮してください。
- ③ 整備後の活用について、（特に公益的な機能が）持続可能な運営（組織や資金繰りなどの仕組みについて）となるようにマネジメントの観点も考慮してください。
- ④ 駅前広場（交通基盤施設など）だけでなく、対象地区を一体的に捉え、田川や旧奥州街道（旧篠原家住宅）などの自然・歴史資源を活かしつつ、まちづくりの視点から提案してください。

(3) 対象地区と周辺地区との連携及び回遊性の向上

対象地区は、政治・経済・文化の中心として発展してきた都心部地区への玄関口であることに加え、宇都宮駅東口地区のまちびらきや東側の LRT 導入などの効果を西側へも波及させていくため、以下の周辺地区との連携及び回遊性の向上についてご留意ください。

① 都心部地区

宇都宮の顔である都心部は、1200 年を超える歴史を持つ二荒山神社をはじめとした歴史資源や、オリオン通りなどの商店街、田川・釜川などの自然資源、さらには様々な祭りやイベントなどの行事とそれを担う人が総体となって「宇都宮らしさ」を形成していることから、これらの地域資源を活かしたまちづくりを推進していく必要があります、こうした都心部地区との連携及び回遊性の向上について考慮してください。

② 宇都宮駅東口地区

2023 年 11 月の「ライトキューブ宇都宮（交流拠点施設）」の供用開始を契機に、より多くの MICE を本市に誘致・開催し、交流人口の拡大による地域経済の活性化や新たなビジネス機会の創出による産業振興等につなげる狙いがあることから、こうした経済効果を東側だけでなく西側へも波及させていくため、宇都宮駅東口地区との連携及び回遊性の向上について考慮してください。

応募図書

上記の募集内容に即して、対象地区の整備構想、主要な提案空間のデザインイメージ、実現化方策等を表現した A2 サイズのパネル 2 枚の提出を求めました。

スケジュール

■応募登録期間

令和 4 年 10 月 3 日（月）～令和 5 年 2 月 17 日（金）

■現地説明会

令和 4 年 11 月 14 日（月）14：30～15：30

■質疑受付期間

令和 4 年 11 月 14 日（月）～11 月 21 日（月）

■応募図書提出締切

令和 5 年 3 月 3 日（金）17 時必着

■審査委員会

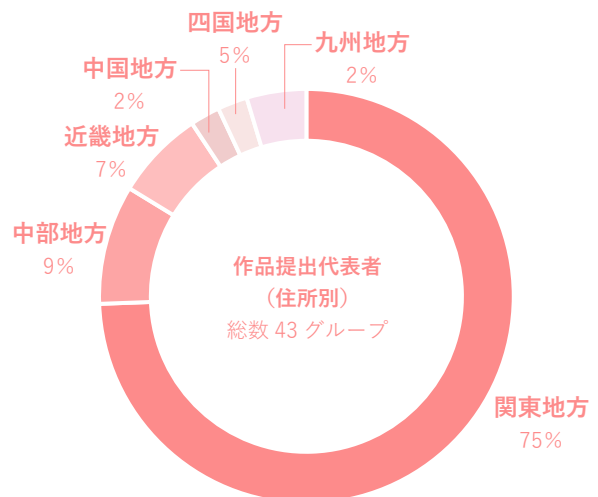
令和 5 年 3 月 14 日（火）

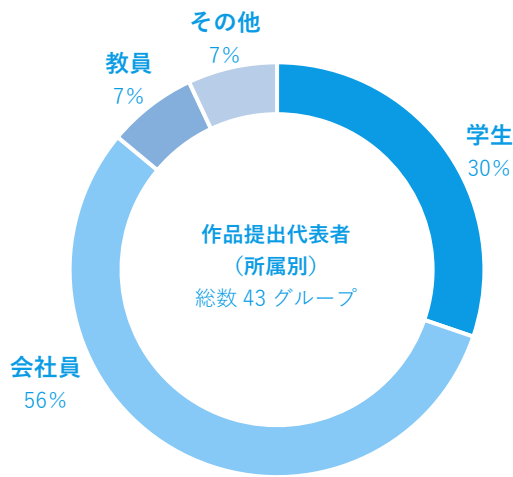
■表彰

令和 5 年 6 月

応募件数・応募者の属性

事前の応募登録数が 64 グループあり、最終的に 43 作品が提出されました（作品提出代表者の属性は円グラフを参照）。





審査委員会及び結果

1. 審査委員会

[委員長]

西村幸夫 國學院大學教授、東京大学名誉教授

[委員]

石川幹子 中央大学研究開発機構 機構教授、
東京大学名誉教授

伊藤香織 東京理科大学教授

岸井隆幸 (公財)都市づくりパブリックデザインセンター
理事長、(一財)計量計画研究所代表理事

高見公雄 法政大学教授

鎌田秀一 国土交通省市街地整備課長
(代理出席：渡辺春彦 同課企画専門官)

佐藤栄一 宇都宮市長
(代理出席：東 智徳 宇都宮市副市長)

(順不同、敬称略、令和5年3月時点)

2. 審査結果

審査委員会での審査の結果、下記の方々の作品が選定されました。※宇都宮市長特別賞は宇都宮市により選定

国土交通大臣賞 …賞状及び賞金 50 万円

石田 武／半澤 武夫／野島 僚子／前山 倫子／
伊藤 航平／高橋 健／橋本 港
[大成建設株式会社]

まちづくり・都市デザイン競技審査委員会賞

…賞状及び賞金 12 万円

河崎 篤史／上木 翔太／上杉 謙虎
[株式会社三菱地所設計 都市開発マネジメント部]

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞

…賞状及び賞金 5 万円

岡本 幸／田口 奈津子／所畑 隆洋／萩原 克典／
田端 啓悟／佐藤 毅
[株式会社プランテック]

奨励賞 (2 点) …賞状及び賞金 3 万円

・景山 亮
[株式会社日建設計 都市・社会基盤部門]

・九鬼 拓也／柴山 慶子／高橋 俊弥／西木 浩志／
横田 直哉
[新潟大学大学院 自然科学研究科
環境科学専攻 都市計画研究室]

宇都宮市長特別賞 …賞状及び記念品

阿部 哲也／児玉 創／田中 宣安／山本 琢人／
柳川 篤志／高岡 奈々恵／戸谷 百萌
[中央復建コンサルタンツ株式会社]

総評

今回の競技は、交通処理に関する課題を解きつつ、まちをいかに魅力的にするかという提案を求める内容で、非常に難しいものであった。そうしたなかでも、知恵を絞り、これまで思いつかなかった視点やアイデアが提案されるなど、課題に真摯に向き合った作品が多く提出されたことに敬意と感謝を申し上げる。

その一方で、以下のような点に更なる工夫・提案を期待し、一層のレベルアップを希望する旨の意見があった。(内容が重複する点がありますが、趣旨をそのまま掲載いたします。)

- ・全体的に駅前広場がうまく成立していない提案が多くあり、やや残念だった。建築的提案と土木的提案のバランスを保つことも、まちづくりの提案として重要である。
- ・宇都宮の中心市街地に存する極めてユニークで魅力的な空間である「田川」を、まちと融合し活かすような斬新な案が少なかった。ランドスケープをベースとする、土地の有する力・魅力を発掘し展開していくことが重要。
- ・LRT を導入する新幹線停車駅という特性があるにも関わらず、駅前の交通機能が解けていない提案が多かったのは非常に残念。加えて、駅東口を意識した提案も少ないように感じられ、その意味では、提案者には、より幅広い視野をもって提案されることを期待したい。
- ・新たに LRT が導入される交通環境の変化に加え県庁所在都市の中心駅として稀有な「田川」との近接という分かりやすい地区更新の可能性に対し、魅力的な方向性を提示する提案はみられなかった。経済状況などから地方都市の市街地整備が進展しない状況下で、こういった計画の技術力低下が露見したように感じる作品が散見されるなどは残念であった。

入賞作品の概要

入賞作品の概要・講評は次頁の通りです。

(公財)都市づくりパブリックデザインセンターHP でも詳細をご覧ください。

(<https://www.udc.or.jp>)